16　励まし合った夜

２０１１年３月１１日（平成２３年３月１１日）の午後２時４６分頃に発生した観測史上最大の地震とその後の巨大な津波で、石巻市内の沿岸部や河川に近い地域は壊滅的な被害を受けました。津波からなんとか逃れることができた人々は、大きな余震が続く中、恐怖と不安を抱えたまま夜を迎えました。

東日本大震災
震度7 沿岸に大津波
M8.8国内最大 死者多数
福島原発が緊急事態 放射能漏れる可能性
朝日新聞
3月12日
被害者数
死者 60人
行方不明 56人
負傷者 241人
各地の震度
震災20年特別紙面

平成２３年３月１２日付「朝日新聞」

石巻市をはじめ、多くの地域では電気・水道・ガスが使用不可能になりました。また、ガソリンや灯油が極端に不足したほか、電話も使えず、家族や友人の安否も確認できませんでした。

しかし、避難した人々は、このような恐怖と不安の中でも、お互いを気遣い、励まし合いながら、暗く、寒さの厳しい夜を越しました。

〇避難所になったある中学校では

震災当日は卒業式があり、ほとんどの生徒は自宅に帰宅していました。体育館の片付けを行っていた数名の生徒と教職員が学校にいました。体育館はその年の１月に新築されたばかりだったので、耐震工事もされていましたが校舎はところどころガラスが割れてしまいました。１５時３０分を過ぎるころには体育館に近隣の方が多く避難してきました。１６時を過ぎると、津波にのまれ、びしょぬれの服を着た方も避難してきました。学校中を探してストーブを集めて、少しでも体を温めようとしました。このころには電気も水も止まっていました。

近隣の避難所になっている学校にも、多くの避難者が集まりお互いに譲り合いながら不安な夜を過ごしました。水も屋上タンクにある分が無くなれば出なくなることが分かったために、プールの水をバケツでくんで、トイレ用に使用しました。

ラジオから流れる情報は「〇〇地域は壊滅的被害」「〇〇地域ではガス爆発が連続し大規模火災が発生」など、暗いニュースばかりで、さらに不安な気持ちが強まります。その中で持ってきたわずかな食料を分け合いながら、なんとかこの夜を乗り切ろう、朝が来るのを待とう、という気持ちで大人も子どもも励まし合いました。

東日本大震災が起きた日のことをまとめてみよう。

① 東日本大震災が起きたとき、どのような状況でしたか。

② 東日本大震災の日の夜、避難した人々はどのように過ごしていましたか。

〇 もし、あなたが避難して、多くの地域から避難してきた人々と一緒に過ごさなければならないとき、どのような気持ちや態度で接したいですか。